

Ⅱ 共同利用研究

1. 概要

昭和57年以来、研究課題として「計画研究」並びに「自由研究」を併置し、昭和62年度には「資料提供」を設置した。さらに平成6年度から「所外供給」を新設し、これらに係る共同利用研究が実施されている。「計画研究」とは、本研究所内推進者の企画に基づいて共同利用研究者を公募するもので、個々の「計画研究」は3～5年の期間内に終了し、まとめた成果を公表する。「自由研究」とは「計画研究」に該当しないプロジェクトで、応募者の自由な着想と計画に基づき所内対応者の協力を得て、継続期間3年を目処に研究が実施されている。「資料提供」とは、資料（体液、臓器、筋肉、毛皮、歯牙・骨格、排泄物等）のみを提供する共同研究として実施されている。「所外供給」とは、本研究所以外の研究機関で行うことがより適切な研究のために、生体のサルを所外に供給するものである。

平成5年度の計画課題、応募並びに採択状況、研究会等の概略は以下のとおりである。

(1) 共同利用研究課題

A. 計画研究（カッコ内は課題推進者。下線は代表者）

1. ニホンザル地域個体群の動態

〔実施予定年度 平成4年度～6年度〕
（渡邊邦夫，東 滋，鈴木 晃）

現在の日本列島のさまざまな環境条件のもとでのニホンザル地域個体群の動態を、分布・個体数・環境利用・人間社会との歴史的関係による行動変容・環境史などの視点から総合的に把握する。いわゆる自然地域ばかりではなく、近年問題になっている“自然群”から野荒らし群への移行行きの経緯や機構についてもとりあげる。

2. ニホンザルの個体数、地域特性、環境要因の定量的把握と保護・管理のための模索

〔実施予定年度 平成5年度～7年度〕
（杉山幸丸，川本 芳，後藤俊二，山極寿一）

1. 採食量と環境許容量の把握。2. 個体数バ

ラメータとその変動要因の把握。3. 生物学的、環境的特性をふまえた（餌付けを含む）ニホンザルの多様性の質的、量的把握。4. 全国的視野でのニホンザル個体数の変動要因の解明。5. 保護・管理の指針づくりへの寄与。等、定量的把握を必要とする。

3. 霊長類における社会場面の状況認識と行動戦略

〔実施予定年度 平成4年度～6年度〕
（森 明雄，大澤秀行，渡邊邦夫，山極寿一）

霊長類の行動には第三者の存在や相手個体の次にとるであろう行動を予想したような振る舞いが数多く認められる。他個体に対するごまかしやだまし、宥和行動や第三者への行動転嫁など、社会的な操作を伴った行動の分析を通じて、彼等自身の社会認識のありようを探る。

4. 霊長類の社会関係と脳進化

〔実施予定年度 平成5年度～7年度〕
（澤口俊之，中村克樹，三上章允，久保田競，）

霊長類の社会関係と脳の大きさや機能、構造との関係を社会生態学、神経科学、心理学、進化生態学など多方面から解析し、社会関係と脳進化の関係を総合的に明らかにする。実証的な研究の他に理論的な研究（数理モデルやシミュレーションなど）も積極的に行う。

5. 霊長類の認知と学習

〔実施予定年度 平成4年度～6年度〕
（松沢哲郎，藤田和生，友永雅己，小嶋祥三）
霊長類の知覚や認知機能とそれに関連する学習行動の特性を実験的に分析し、ヒトの資料と比較して考察する。模倣や注意、異種感覚間統合、表象や概念の形成、個体や種の認知、コミュニケーション、など高次の情報処理を主として扱う。

6. 霊長類の知覚特性の比較心理学と神経科学的基礎

〔実施予定年度 平成4年度～6年度〕

(藤田和生, 三上章允, 友永雅己)

主として形や色や運動などの知覚にみられる錯覚や恒常現象, 残像現象などを動物心理物理学的手法や神経科学的手法により実験的に解析し, 霊長類の知覚特性とその進化を考察する。

7. 霊長類の老化に関する研究

[実施予定年度 平成4年度～6年度]

(小嶋祥三, 松林清明, 鈴木樹理, 木村 賛, 景山 節, 中村 伸, 林 基治, 野崎真澄)

霊長類の老化に伴う身体・機能の変化や, さらに認知機能の変化を明らかにするために, 解剖学, 組織学, 内分泌学, 免疫学, 生殖生理学, 神経科学, 生化学, 心理学など多方面から総合的に考究し, サルにおける老化の基本像を探る。他の動物種とも比較しながら, サルの老化の特性を明らかにし, モデル化を試みる。

8. 霊長類硬組織の形態学的研究

[実施予定年度 平成3年度～5年度]

(野上裕生, 瀬戸口烈司, 相見 満, 毛利俊雄)

現生霊長類と化石霊長類の統一的な理解を目指し, 霊長類の骨格・歯牙の比較形態学的研究を行う。

9. 霊長類軟部の比較形態学

[実施予定年度 平成4年度～6年度]

(木村 賛, 岩本光雄, 毛利俊雄)

軟部形態を巨視的および微視的両面より検討し比較を行う。系統発生的観点のみならず機能的観点をも含め, 霊長類形態の適応と進化について考察したい。

10. 霊長類の臓器特性に関する生理・生化学的アプローチ

[実施予定年度 平成4年度～6年度]

(景山 節, 浅岡一雄, 林 基治, 鈴木樹理)

霊長類の諸臓器の酵素, 代謝産物, 生理活性物質等の性状, 動態を生理・生化学的手法を用いて解析する。他の動物と比較しながら, 霊長類の臓器の特性を明らかにしていく。

11. 生体分子の構造分析による霊長類の系統

[実施予定年度 平成3年度～5年度]

(竹中 修, 庄武孝義, 川本 芳)

核やミトコンドリアのDNAあるいは微量タンパク質の構造を生化学的, 遺伝学的手法により調べ, 霊長類の系統を明らかにする。また新しい分析方法の開発もあわせて目的とする。

B. 自由研究 (計画研究に含まれない研究課題)

C. 資料提供

(2) 応募および採択状況

平成5年度のこれらの研究課題について103件(182名)の応募があり, 運営委員会共同利用研究専門部会(浅野俊夫, 岡田守彦, 野沢 謙, 石田英実, 竹中 修)並びに共同利用研究実行委員会(相見 満, 藤田和生, 大澤秀行, 澤口俊之, 中村 伸, 浅岡一雄)との合同会議において採択原案を作成した。この原案は協議委員会(平成5年2月10日)の審議・決定を経て運営委員会(平成5年2月22日)で了承された。

その結果, 96件(165名)が採択された。各課題についての応募・採択状況は下記のとおりである。

課題	応募	採 択 (*)
計画1	3件 (4名)	3件 (4名)
2	4件 (7名)	4件 (7名)
3	1件 (1名)	1件 (1名)
4	2件 (2名)	2件 (2名)
5	3件 (3名)	3件 (3名)
6	3件 (6名)	2件 (2名)
7	5件 (8名)	4件 (7名)
8	7件 (15名)	4件 (5名)
9	11件 (22名)	10件 (19名)
10	5件 (8名)	5件 (8名)
11	5件 (7名)	5件 (7名)
自由	46件 (84名)	42件 (78名)
資料	10件 (15名)	9件 (22名)

(3) 研 究 会

平成5年度は, 「研究会」と小規模の「ミニ研究会」が以下のとおり採択・実施された。

A. 研究会

1. 霊長類の採食生態研究の展開
2. 霊長類の知覚・認知とその神経科学的基礎
3. ニホンザルの現況
4. 父子判定にもとづく霊長類の行動解析

5. 第2回類人猿研究会

「類人猿の土地利用と採食生態学」

6. 第23回ホミニゼーション研究会

「ホミニゼーションを脳から眺める」

B. ミニ研究会

1. 屋久島のニホンザル地域個体群の構造と保存

2. フィールドテレメトリーの課題と展望